

身近な移動手段を未来に残すために

通勤や通学、通院など皆さんの日常生活を支えている公共交通。一方で、利用者の減少や運転士不足により、公共交通を取り巻く環境は年々厳しくなっています。積極的に利用することで、身近な移動手段の維持につなげましょう。



人とまちを支える公共交通

利用して守ろう 地域の足

私たちの生活に欠かせない「移動」。通勤、通学、通院、買い物といった皆さんの日常生活で身近な移動手段となっているのが公共交通です。

しかし、人口減少や少子高齢化などにより、公共交通を取り巻く環境は年々厳しくなっています。特に路線バスは、利用者の減少や運転士不足により、路線の縮小や休廃止が全国的に問題となっています。本市においても廃線となった路線があります。

公共交通を使う メリット

市内には、民間事業者が運行する鉄道や路線バス、タクシートのほか、市が運行するコミュニティバス

スやオンデマンド交通など、目的や状況に合わせて選べるさまざまな移動手段があります。日常生活のちょっとした移動から公共交通を利用してみませんか。

公共交通を利用することは、次のように個人的にも社会的にも多くのメリットがあります。

安全な移動・渋滞緩和

高齢者など運転に不安を感じている人も安全に移動できます。また、交通量が減ることで渋滞緩和が期待できます。

環境にやさしい

交通量が減ることで二酸化炭素の排出量を抑えることができ、地球温暖化防止につながります。

運動不足を解消

駅やバス停まで歩くなど、運動する機会が増え、運動不足の解消につながります。

経済的である

自動車は購入費のほか、税金や燃料代などで高額な維持費がかかるため、公共交通を利用することで出費を抑えることができます。

持続可能な 公共交通を目指して

市では、持続可能で効率的な公共交通を実現するため、交通事業者や市民の代表者と共に市内の公共交通のあり方について検討を進めています。

また、最近では地域団体が主体となり送迎サービスを提供する公共ライドシェアの取り組みが全国的に広がっています。こうした取り組みを導入するには、道路運送法による手続きが必要です。地域で導入を検討したい場合は、都市計画課交通政策室(市役所5階 20・1560)に気軽に相談してください。

※くわしくは都市計画課交通政策室へ。

市総合公共交通マップを 公開しています

市では、市内を運行する路線バスとコミュニティバスの経路や乗降場所、運賃などの情報をまとめた「市総合公共交通マップ」を市ホームページで公開しています。

※くわしくは交通防犯課(☎20-1527)へ。



市ホームページ

日々の運転に込められた思いを聞いてみました／

声とハンドルに真心を



ジェイアールバス関東
ながやま たくや
永山 拓哉さん

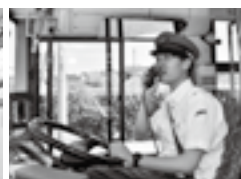
叔父がバスの運転士だったこともあり、小さい頃から大きな乗り物を動かす姿に憧れて、バス運転士を目指しました。毎日心掛けているのは、お客さんに安心して乗ってもらうこと。急発進や急停止といった急が付く動作を避けることはもちろん、アナウンスでは伝わりやすい言葉を選んで、落ち着いた声でゆっくりと話すようにしています。「ありがとう」と声を掛けてもらえた時は、この仕事のやりがいを感じます。「今日も誰かの大切な1日を運んでいる」。そう思いながら、これからもハンドルを握っていきます。



案内は笑顔で明るく



降車後のチェックも入念に



落ち着いてゆっくりと



優しく向き合う接客を



車両点検も丁寧に



安全にも気を付けながら

安心と安全への思いを乗せて

運転や人と話すことが好きで、この道を選びました。「ありがとう」と笑顔もらえる度にこの仕事の魅力を実感しています。タクシーを利用する際、多くの人が不安に感じるのは料金のことだと思います。だからこそ、目的地までどのくらいかかるのかを丁寧に説明して、安心して利用してもらえるように心掛けています。安全で快適な運行には気を使いますが、車内でのちょっとした会話は私にとって楽しいひとときです。荷物が多い時や雨の日、疲れた日の帰り道など、タクシーはきっと皆さんの力になれる乗り物です。



京成タクシーイースト
きむら あやの
木村 彩乃さん

利用者の不安に寄り添いながら



京成バス千葉イースト
いしかわ なおし
石川 侃さん

大型車両を運転することに憧れがあり、バス運転士になるのが夢でした。普段は笑顔や丁寧な接客で話しかけやすい雰囲気をつくることで、安心して乗ってもらえるように心掛けています。車いすなどで乗り降りに不安がある人の中には、時間がかかるからと周りのことを気にしている人がいるかもしれません。その気持ちに寄り添いながら、積極的に乗り降りを手伝うようにしています。目の前で困っている人を助けられた時は、やりがいとうれしさを感じます。どんな人にでも利用しやすいバスでありたいです。



スロープはすばやく安全に



出発前の確認もバッチリと



乗車案内も笑顔で